

『やらいや逢坂』

移動の困りごとにはチャレンジ！

大山町では普段の買い物や通院、文化的な活動等を行うための移動が難しい方のため、様々な取り組みを行っています。しかし、より細かい移動ニーズに対することは難しく、住民満足度をなかなか高めにくい現実もあります。

やらいや逢坂では、このことに着目し、昨年度から移動の困りごとを地域の中の助け合いで解決できないかと勉強を重ねてきました。

移動の困りごとは大山町だけの問題ではなく、社会の大きな流れの中で出てきた、日本全体の問題です。昔は、村、町単位で車がなくても、徒歩などで生活が成り立つように地域ができていました。

しかし、自動車が普及し、住んでいる所から離れた場所にも手軽に買い物に行ったりできるようなになった反面、徒歩や自転車で行ける範囲（地域内）で、生活に必要なものを手に入れられる商店等がだんだんと減っていききました。その後時代が進んで、高齢化社会になると、自分で車が運転できず、生活に必要なものを買う



▲安来市比田地区で地域交通の先進的な取り組みを視察

ために離れた所（地域外）まで出ることが難しい人が多くなってきました。

移動の困りごとが全国的な課題となっている中、やらいや逢坂では、昨年度、県外2地区の先進的な取り組み（宮城県石巻市、鳥根県安来市比田地区）を学びました。

両者ともに、いわゆる「白タク」行為にならないように法律的に考えられており、しかもその地域の要望（ニーズ）やできることに合わせた形で取り組まれていました。石巻市の事例では、移動の困りごとの解決だ

けではなく「皆で買い物ツアール」や「お出かけ企画」など、移動の困りごとの解決に使う車を活用して生活を楽しんでいる様子や、仲間づくりに重点を置いた運営の仕方に住民が主体的に関わっている姿が刺激になりました。二つの地区の事例を参考にしながら、また、逢坂地区の現状を確認し合いながら「5年後、10年後に当たり前前に皆が利用できるようなになったらいいな」という長い期間でのイメージを持ちつつ検討を進めています。

今年度は、移動の困りごとを助けて軽減する『共助交通事業』をやらいや逢坂の新規事業として進めるため、県や日本財団と連携して専門家からアドバイスをいただきながら、逢坂地区で実際に何ができるか、具体的に検討を行っています。まずは、8月初旬から10月末まで無料モニター期間を設け、まぶやの行事の利用者に向けて自宅までの送迎を実施しています。

やらいや逢坂の催しへの参加や、事業の手伝いをしていただければ移動手段がなくてお困りの方（年齢問わず）は、事務局までご連絡ください。ドライバーも地域住民によるボランティアで実施しており、同時に募集しています。



▲実際の運用の仕方について説明を受けている様子



▲やらいや逢坂で、共助交通事業モニターに使用している車両

今後は、モニター期間にいただいた意見や感想を活かし、本格運用につなげていきます。

◆問い合わせ先

やらいや逢坂事務局

☎080・1946・2614